

製品名: PKAβ 猫ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16187**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	53kDa

抗原情報

遺伝子名	PRKACB
別名	PRKACB; cAMP-dependent protein kinase catalytic subunit beta; PKA C-beta
遺伝子 ID	5567.0
SwissProt ID	P22694
免疫原	抗血清はヒト KAPCB 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 291-340

背景

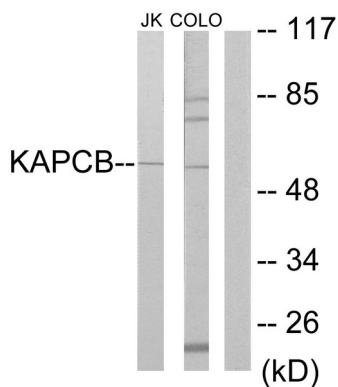
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、セリン / スレオニンプロテインキナーゼファミリーのメンバーです。コードされるタンパク質は、cAMP (サイクリック AMP) 依存性プロテインキナーゼの触媒サブユニットであり、cAMP を介したシグナル伝達を

媒介します。cAMPシグナル伝達は、細胞増殖や分化など、多くのプロセスにおいて重要です。異なるアイソフォームをコードする複数の選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2014年7月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質、補因子: マグネシウム、酵素制御: cAMPによって活性化、機能: GPCRへの受容体結合によって引き起こされるcAMP依存性シグナル伝達を媒介します。PKAの活性化は、細胞増殖、細胞周期、分化、微小管ダイナミクスの調整、クロマチンの凝縮と脱凝縮、核膜の分解と再構成、細胞内輸送機構とイオン流の調整など、多様な細胞プロセスを制御します。PTM:Asn-3は部分的に脱アミノ化されてAspとなり、それぞれCBとCAと呼ばれる2つの主要な等電点変異体が生じます。類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。AGC Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。cAMPサブファミリー。類似性:1つのAGCキナーゼC末端ドメインを含みます。類似性:1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。細胞内位置:核(単量体触媒サブユニット)に移行します(類似性による)。不活性ホロ酵素は細胞質中に存在します。サブユニット:2つの触媒サブユニットと結合した異なる調節サブユニットのホモダイマーまたはヘテロダイマーの組み合わせによって、多くの不活性四量体ホロ酵素が生成されます。cAMPは、不活性ホロ酵素を4つのcAMPと2つの遊離単量体触媒サブユニットに結合した調節サブユニットのダイマーに解離させます。組織特異性:アイソフォーム1は脳に最も多く存在し、腎臓では低レベルの発現を示します。アイソフォーム2は主に胸腺、脾臓、腎臓で発現します。アイソフォーム3と4は脳でのみ発現します。

研究分野

MAPK_ERK_成長;MAPK_G_タンパク質;カルシウム;ケモカイン;卵母細胞減数分裂;アポトーシス抑制;ミトコンドリアアポトーシス;アポトーシスの概要;血管平滑筋収縮;WNT;WNT-T細胞ヘッジホッグ;ギャップ結合;長期増強;嗅覚伝達;味覚伝達;インスリン受容体;GnRH;プロゲステロン媒介卵母細胞成熟;メラニン形成;プリオン病;コレラ菌感染症;拡張型心筋症;

画像データ



KAPCB抗体を用いたJurkat細胞およびCOLO205細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。